

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：農学教育部会

部会長名：藤嶽暢英

作成者名：藤嶽暢英

概要（2000 字）

1. 組織と運営

農学教育部会は農学部研究科教員（食資源センターも含む）58 名で構成されている。部会の運営は部会長 1 名と幹事 2 名を中心とする幹事会が行っている。部会長は原則して 1 年で交代し、次期部会長は幹事の中から選ばれる。部会所属教員の他に 3 名の非常勤講義に講義を担当してもらっている。

2. 開講科目と実施状況

地球全体レベルでの広い視野が求められる環境問題、生物資源問題、食糧問題、食育を通じた健康問題、食品の安全性問題への幅広い理解と取り組みを提起することを目標として、「生物資源と農業」と「食と健康」の 2 つの科目を教養原論として開講している。各科目には内容の異なる講義を 2 コマずつ配置している。授業は 3 ～5 名の教員と非常勤講師によるオムニバス形式で行っている。

平成 25 度は、以下のような内容の講義を行った。

「食と健康」前期（木曜 1 限）

作物や食品に含まれる化学物質や農薬の安全性、貯蔵条件による機能性成分の変動、食品因子によるアレルギー抑制効果、腸管を介した免疫調整機能を有する食品因子、遺伝子とタンパク質と遺伝子組み換え作物、食品の微生物危害、家庭における食品衛生、お肉と牛乳と卵の講義を行った。

「食と健康」後期（火曜 2 限）

作物や食品に含まれる化学物質や農薬の安全性、食の安全性と機能性、微生物の生理・代謝と利用、植物の色・香り、動物と家畜、食肉偽装と DNA 鑑定、農薬の安全性評価などの講義を行った。

「生物資源と農業」後期月曜 1 限

食のため有史以前から利用し、改良を加えてきた多様な生物の中心である植物資源と昆虫資源の利用、遺伝資源の起源と探索、それらを取り巻く環境である土壌について紹介し、農業の基礎を理解するため、植物、土壌、微生物、昆虫に関する講義を行った。

「生物資源と農業」後期木曜 1 限

イネ、トウモロコシなどの穀物の特性と品種改良、効率的な生産を支える栽培技術や栽培環境について紹介し、グローバルな農業・食料・環境問題についての理解を深めるため、東日本大震災による福島原発の事故による放射能汚染、農業熱帯植物（コーヒーなど）、穀物の遺伝資源と品種改良、森林資源と林業に関する講義を行った。

3. 現状と今後の課題

自己点検評価に関しては、すべての授業担当者からの回答は得られなかったものの、概ね良好であった。例えば、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮するため、アンケートなどを実施し翌年あるいは次回の講義に反映させているなどの工夫が見られた。また、平成 24 年度以降、成績の付け方（必ず小テストを行い、

それをもとに成績をつける) や遅刻者に対する対応など各教員間の不均衡も是正され、成績評価、単位認定がより適切に実施されるようになっていく。この点については、継続的に徹底していきたい。さらに、講義の中で一番印象に残った講義内容を聞くと、それぞれの学生が実に多様な回答をしたことから、オムニバス形式の利点、即ち、「多様な学習の達成度や満足度に対応できる」点が活かされていた。その反面、学生アンケートの回答母数が数パーセントに留まるため、学生のニーズや期待が充分にくみ取れていない感は否めない。例えばアンケートによる総合評価は木曜1限の「生物資源と農業」では、4.25と比較的高得点であったが、月曜1限の同講義では3.13と数字的に満足できるものではなかったが、数人の学生評価次第で点数が大幅に左右するためにこれらの数値を額面通りに受け取ることはできない。今後、講義の中でもアンケート回答への呼びかけを積極的におこない、意見をくみ取ることがより重要な課題である。

様式2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③: 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

(観点に係る状況)

教養原論として「生物資源と農業」と「食と健康」の2科目を開講している。「生物資源と農業」では食料問題、環境問題を、「食と健康」食品安全性、食品偽装問題、遺伝子組換え作物の問題を取り上げ、多様な学生が興味をもつ授業内容となるように配慮している。

根拠資料

- ・ シラバス
- ・ 授業配付資料
- ・ 各教員の自己点検・評価報告書

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

(観点に係る状況)

授業形態はパワーポイントを使用した講義が主となっている。200名収容の大講義室で実施しているため、対話形式授業の実践は難しいが、レポートを書かせ、次の講義で対応するなどしている。

根拠資料

授業配布資料

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

小テストやレポートを毎回実施し、それをもとに成績をつけている。出席状況や受講態度などの平常点に対する評価も各教員間で不均衡がないよう周知している。

根拠資料
小テスト
レポート課題

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスには授業履修を決める上で必要となる情報、授業のテーマと到達目標、授業の概要と計画(授業日、担当教員名)、成績評価と基準、履修上の注意、教科書などを記載している。ガイダンス時にもシラバスを配布し、説明している。

根拠資料
シラバス
ガイダンス配付資料

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

(観点に係る状況)

授業中、中学・高校理科の復習的な内容にも触れ、基礎学力不足の学生にも理解できるように配付資料を作成している。シラバス及び講義中に教員のメールアドレスを公開し、オフィスアワー中に対応している。

根拠資料
シラバス
授業配付資料

5-3 【学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

シラバスに成績評価基準を掲示するとともに、ガイダンス時の資料を配付し、学生に成績評価基準を説明している。その基準に従い、成績評価、単位認定を行っている。

根拠資料
シラバス、ガイダンス配付資料

5-3-③： 成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

授業担当教員から提出された小テスト、レポート提出など評点を部会長、幹事が集計し、成績を評価している。各教員から提出された評点と成績分布に偏りが無いことを確認している。授業開始 20 分以降の入室者は遅刻者として扱い、20%減点している。問い合わせのあった学生には小テストなどの点数を公開している。

根拠資料

シラバス、成績評価の分布

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学生授業評価アンケートによる総合評価は「どちらとも言えない～どちらかと言えば有益であった」との回答が得られ、学習成果や効果は概ねあがっていると考えている。本年度実施した討論参加型授業に関しては 200 名の大人数では無理があるとの意見も寄せられたので、次年度以降やり方については検討する。

根拠資料

- ・ 授業評価アンケート
- ・ 教員の自己点検・評価報告書

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

レポートや自主的学習に役立つ参考書をシラバスや授業の配付資料に紹介し、図書館で閲覧できるようにしている。

根拠資料

- ・ シラバス

7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習，課外活動，生活や就職，経済面での援助等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目，専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。
(観点に係る状況)

第1回目授業でガイダンスを実施している。シラバスに記載されている事項(授業のテーマと到達内容、授業内容、成績評価と基準など)と担当教員のメールアドレスを記載した資料を配付し、説明している。

根拠資料

- ・シラバス
- ・第1回目授業配付資料

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。

また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

学生支援に関する学生のニーズを把握するため、教科ごとにアンケートを実施している。授業終了後に学生の質問や参考文献の紹介に対応している。また、教員のメールアドレスを公開し、欠席、出席回数等の問い合わせに対応している。

根拠資料

- ・シラバス
- ・アンケート